

S-class LINE公式アカウント

March
2018
#004



未来のノーベル賞候補と呼ばれる少年は、学校に通わず家庭で学ぶというスタイルで勉強していました。近年、このような既存の型にはまった教育とは違う、きめ細かい教育が注目を浴びています。

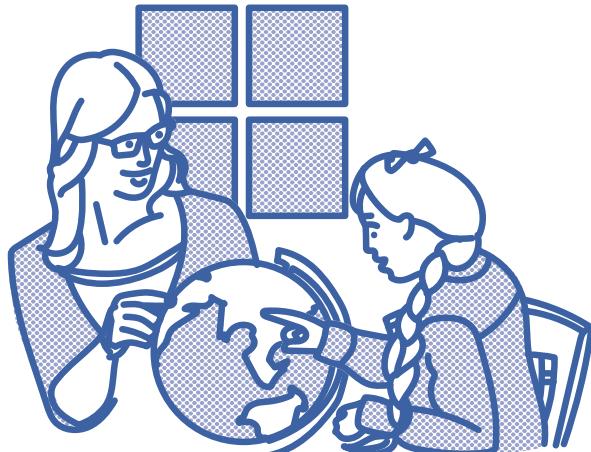
ホームスクーリングとは、学校に行かず、家庭を学びの拠点として教育を受けることです。学校よりもっと質の高い環境を、保護者を中心とした周囲の大人が整えていきます。

不登校がきっかけでホームスクーリングに移行していくケースが多いですが、学校に行くことをただ放棄しているのではなく、家庭が教育の主導権を握って学ぶ機会を与えることをホームスクーリングと呼ぶことが多いです。

学校に行くという拘束力がなくなると、何もしない生活を過ごすことになるのではないかという疑問もあります。ホームスクーリングでは家庭を中心にしてよいわけではなく、怠けることは許されません。全てのご家庭と同じように厳しさがあり、学校に行かないことと甘やかしているのとは違うということですね。

日本的な「みんな一緒に」という思想は、協調して仕事を達成できるという良い面があります。一方で才能や可能性の芽を摘んでしまうことも残念ながらあるようです。また、学校に教育の責任を押ししつけるのではなく、家庭や地域の大人たちが分担して協力していくのが教育のあるべき姿だと思います。

すべての人人がホームスクーリングに向いているとは限りませんが、多様な価値観がある現代においては重要な選択肢の一つとして、今後の広がりに期待ですね。



学習スタイルは家庭によってさまざまです。学校と同じ内容を学ぶ家庭もあれば、完全に自主性に任せた学びをサポートしている家庭もあります。学び方はひとりひとりの個性に合わせています。

学校に行かないと、社会性が身につかないのではないかという心配もあるかもしれません。ホームスクーリングをしている家庭では、どちらかというと学校の勉強よりも人生における学びを重視する傾向があるので、実際には幅広い世代の人とコミュニケーションをするような環境が整えられている場合が多いです。反対に、学校に通っている社会性が身につかない人がいることも踏まえると考えさせられるものがあります。

学校に行くという拘束力がなくなると、何もしない生活を過ごすことになるのではないかという疑問もあります。ホームスクーリングでは家庭を中心にしてよいわけではなく、怠けることは許されません。全てのご家庭と同じように厳しさがあり、学校に行かないことと甘やかしているのとは違うということですね。

日本的な「みんなと一緒に」という思想は、協調して仕事を達成できるという良い面があります。一方で才能や可能性の芽を摘んでしまうことも残念ながらあるようです。また、学校に教育の責任を押ししつけるのではなく、家庭や地域の大人たちが分担して協力していくのが教育のあるべき姿だと思います。

すべての人人がホームスクーリングに向いているとは限りませんが、多様な価値観がある現代においては重要な選択肢の一つとして、今後の広がりに期待ですね。

3月のトピックス

Topics

受

験生はいよいよ進路が決まる時期になりました。志望校に行くことに成了た人、そうでない人、浪人してあと一年がんばる人など、それぞれの新しいスタートを切るわけですが、今の状況で自分ができることが何かを考え前進していくほしいと思います。

新高3の大学受験は、夏までが勝負です。データを見ると、全国と比較して青森の県立高校では夏以降は成績が下がっていく一方だということがわかります。いかに春夏で貯金を作つてかかるかがポイントになります。本当に大学受験はシビアですね。

新中3の高校受験は、今年度の入試の状況をよく見ておくと良いです。受験した先輩に話を聞いたりできたラーベストですね。理数系の科目においても国語力を試されるというのがこれから流れですので、理数科目にこだわりすぎず、国語力を身につけるのが一番の近道なのかもしれません。高校受験は基礎力を試すテストで、難問を解くことではなく、平均的な問題をいかにまんべんなく解けるかが求められますので、学校の授業やワークも大切にしていくと良いでしょう。

普

段生徒に様々な教科を教えていますが、生徒たちから教わることもたくさんあります。生徒のSくんは電車に乗ることが好きで、いろいろな路線の電車に乗つていろいろな駅を巡る話をよくしてくれます。とても詳しくて、実家が関東にある私に「こういう乗り方もあるよ」「こう乗ると安いよ」といったアドバイスをしてくれます。普段アプリの乗換案内に頼っている私からします。

「俳優の名前や漫画の登場人物はすぐに覚えられるのに、どうして英単語を覚えるのはこんなに難しいものです。

「なんでもシャットアウトされてしまうのです。もし人間がコンピュータのように完全に理論で割り切れるのなら、ガチガチに「考えて」から判断するのもいいかもしれません。ただ、人間はそんなに合理的にはできていなくて、そこにはまだ楽しいところだと思います。

「いじょうか。考えるより質問をいただきました。弘前方面の方らしく、オススメの塾を探されているようでした。こちらからのお返事として「直観的に、好きだと感じられる塾が良いです」とお答えしました。どこの塾もがんばって指導されていますし、塾は人と人の対話の場である以上、お互いの相性がとても大切だと思っていましたからです。どうしても勉強のこととなると堅く考えてしまつて、合理的な根拠をもつて塾を選ぶべきだ、と理屈を並べてしまいがちですが、感覚で選んだほうがよいとお答えしました。

「なんとなくこの塾に行きたないと感じることからすでにはじまって、あとからこんなにたくさんの方と出会えたことがうれしいです！ありがとうございます！」

L
INE@の友だち登録数が1000人を越えました。小さな塾からこんなにたくさんの方と出会えたことがうれしいです！ありがとうございます！

塾生はもちろん、塾生でない皆さんからもご相談をいただきるので、時間がある時に返信しています。その中で先日「どんな塾を選

S-classの vol.4

スタッフコラム

「好き」から学ぶ

Staff Column



今月の担当者
西村 香澄/
最近気づけばチョコレートを食べています。バレンタインっていいものですね。

